

第18回仙台市動物愛護協議会 議事録

開催日時	平成 25 年 12 月 6 日（金）14 時 00 分から 16 時 00 分
開催場所	仙台市役所本庁舎 2 階 第 4 委員会室
出席者	
委員 (順不同・ 敬称略)	大草潔（副会長） 吉川時夫 甲羽良平 齋藤文江 坂本憲昭 佐藤衆介（会長） 柴内裕子 山口千津子
事務局	健康福祉局保健衛生部長 保健衛生部参事兼生活衛生課長 同動物管理センター所長 同動物管理センター主任 同生活衛生課食品衛生係長（進行） 同生活衛生課食品衛生係主査
次第	1. 開会 2. あいさつ 保健衛生部長 3. 議事 （1）平成 24 年度仙台市動物愛護アクションプラン実施結果について （2）平成 25 年度仙台市動物愛護アクションプラン実施状況について （3）仙台市動物管理センターの愛称について （4）その他 4. 閉会

発言者等	
<開会> 進行	それでは定刻になりましたので、ただいまから第 18 回仙台市動物愛護協議会を開催いたします。初めに本協議会にあたりまして、鈴木保健衛生部長よりごあいさつ申し上げます。
<挨拶> 保健衛生部長	皆さん、こんにちは。保健衛生部長をしております鈴木と申します。よろしくお願いたします。本日は委員の皆様には大変お忙しい中を、第 18 回仙台市動物愛護協議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。また日ごろより本市の市政運営に対しまして、格段のご理解とご協力を賜っておりますことに厚く御礼を申し上げます。 仙台市の動物愛護行政はこの協議会でご審議を経まして、平成 18 年に策定されました仙台市動物愛護行政の基本指針に基づき、毎年度取り組むべき方向性やアクションプランを策定いたしまして、各事業に取り組んでいるところでございます。 さて今年のトピックスと言いますか、大きな取り組みといたしまして、1 つは東日本大震災の発生により、延び延びになっておりました、動物救護体制の整備を目的としました災害協定が、6 月の 10 日に仙台市獣医師会の大草会長さんと奥山市長との間で締結をされました。

	<p>もちろん東日本大震災におきましては、大変なご尽力をいただいたわけでございます。この協定の締結にて、被災動物の救護体制のより迅速な立ち上げ、ペットとともに避難された飼い主への支援やご指導がさらに可能となりました。ひいては市民生活の安全安心の確保につながるものと、大いに期待をいたしているところでございます。</p> <p>それからもう1つは、本日ご審議をいただきます動物管理センターの愛称でございます。当センターは人と動物がともに健康に生きていけるまちなの実現を目指し、犬猫の譲渡会やボランティア養成セミナーを開催いたしまして、年々市民との関わりが深い施設となってきたと思います。この当センターの取り組みを、さらに広く市民の皆様知っていただきまして、より身近で親しまれるセンターとなることを目指すという目的で、愛称を設けることとしたところでございます。</p> <p>市民の皆様は過日、募集をいたした結果、ご案内のとおり、286件もの応募がございました。委員の皆様には既に一次選考を、お願いをしたところでございます。本日は二次選考をお願いいたします。今年度中には市民の皆様は愛され、親しんでいただける愛称を決定したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。</p> <p>本日はこのほかにも昨年度の動物愛護アクションプランの実施結果、本年度の動物愛護アクションプランの4月から10月までの実施の状況をご報告させていただく予定になっております。委員の皆様には、ぜひ忌憚のないご意見を賜ればと思っております。大変簡単ではございますけれども、開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。本日はよろしくお願いをいたします。</p>
進行	<p>続きまして本協議会の事務局を務めさせていただいております仙台市の職員が、4月の異動で若干変更がございましたので、ご紹介させていただきます。ただいまごあいさついたしました鈴木保健衛生部長でございます。</p>
保健衛生部長	<p>よろしくお願いをいたします。</p>
進行	<p>岡崎保健衛生部参事兼生活衛生課長でございます。</p>
参事兼生活衛生課長	<p>よろしくお願いをいたします。</p>
進行	<p>亀田動物管理センター所長でございます。</p>
動物管理センター所長	<p>よろしくお願いをいたします。</p>
進行	<p>新木動物管理センター主任でございます。</p>
動物管理センター主任	<p>よろしくお願いをいたします。</p>

進行	<p>最後に本日司会進行を務めさせていただきます、私、生活衛生課の戸井田と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。議事に入る前に、お配りしております資料の確認をお願いいたします。本日は配布資料として、一覧をお手元にご用意させていただいておりますが、それを確認いただきたいと思ひます。</p> <p>協議会の次第を1部ですね。資料1といたしまして、平成24年度仙台市動物愛護アクションプラン実施結果。資料2といたしまして、平成25年度仙台市動物愛護アクションプラン実施状況。資料3といたしまして、動物管理センターの愛称の選考基準、及び選考方法を取りまとめたものが1部です。資料4といたしまして、IAHAIO 2013 シカゴ宣言を印刷したものでございます。参考資料といたしまして、本協議会の設置要綱、並びに平成25年度、本年度の仙台市動物愛護アクションプランをまとめたものが1部でございます。</p> <p>後ほど協議会の中で、報告ということでIAHAIO 2013 シカゴの報告に関する資料として2種類、お手元にご準備しておりますので、ご確認をお願いいたします。資料の不足等ございましたら、事務局にお申しつけいただければと思ひます。よろしいでしょうか。</p> <p>事務局からお願い事項になりますけれども、本協議会は公開で行われます。また議事録を作成しておりますので、ご発言の際にはお手元のマイクでご発言いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。それでは議事に入りたく存じます。これからの議事進行につきましては、協議会設置要綱の規定に基づきまして、会長をお願いすることになります。佐藤会長、よろしくお願ひいたします。</p>
佐藤会長	<p>東北大学の佐藤です。議長を務めさせていただきます。議事の進行、ご協力よろしくお願ひいたします。今日は議題が3つあります。平成24年度の仙台市動物愛護アクションプラン実施結果について。2番目が25年度の仙台市動物愛護アクションプラン実施状況について。そして3番目、仙台市動物管理センターの愛称についてということで進めたいと思っております。それでは早速1番目の議題に入りたくと思ひます。事務局からご説明お願ひいたします。</p>
動物管理センター所長	<p>はい、事務局からご報告させていただきます。平成24年度仙台市動物愛護アクションプランの実施結果ですけれども、資料1をご覧いただければと思ひます。第17回協議会にて、12月までの実績につきましてはご説明しておりますので、1月からの追加事項の中で、特にご紹介したい事項に限定してご説明いたします。資料1のアクションプランの本文は明朝体で、実施結果はゴシック体で記載しております。ご覧ください。</p>

重点事業の1の飼い主のいない猫対策事業でございます。本市の飼い主のいない猫対策事業としましては、飼い主のいない猫の不妊去勢手術の推進のため、仙台市獣医師会が平成18年度より行ってきました地域猫社会復帰事業に対し、平成22年度から一部経費の補助を行っております。表をご覧ください。

平成24年度はメス326頭、オス178頭の合計504頭の実施となりました。平成23年度の実績の127%という実績を上げております。その結果、2ページの(4)飼い主のいない猫に関する苦情対応の表、②をご覧ください。猫の苦情相談件数は年々減少しております、平成24年度の件数は22年度から87.6%と、確実に効果が現われているものと考えております。

次に重点事業2の災害発生時動物愛護対策事業についてでございます。5ページまで飛びます。ご覧ください。③の被災動物救護のためのボランティア養成につきましては、1月から3月に、日本動物病院福祉協会の被災地の支援事業として、動物管理センターにおいて、被災動物救護のためのボランティア養成セミナーを6回実施していただきました。

このセミナーには岩手・宮城・福島の各被災地のボランティアや、動物病院スタッフ、のべとしましては約300名が参加しております。また⑦の災害発生時の動物愛護対策の周知に関わる事業といたしまして、3月10日には被災動物追悼と感謝の会を、本部事業として開催しました。市内の本部事業にご協力いただいたボランティア団体と企業8団体に、感謝状を授与しております。

続きまして6ページをご覧ください。4の重点事業以外の平成24年度アクションプランの具体的な取り組みでございます。適正な飼養の推進の中の、飼い主のマナー向上対策につきましては、下の2になります。公園等におけるマナー向上の推進の中で、(2)町内会等と連携してマナーアップセミナー等を開催とあります。1月は泉区の館連合町内会主催により、愛犬マナーアップワークショップを開催しました。“糞ウォッチング”及び“人と犬が仲良く暮らす為に”をテーマに、市と協働で講演会を開催いたしました。

また2月には若林区の公園愛護協会の講習会にて、公園課と協働で「公園におけるペットマナー向上のための仕掛け作り」をテーマに講演会を開催いたしました。今後ともこのような地域や公園課等の関係部署とともに、取り組みを実施してまいりたいと考えております。続きまして8ページをご覧ください。

3の、一番上個体識別措置の普及推進につきましては、仙台市獣医師会

	<p>のご協力により、譲渡動物へのマイクロチップの装着を推進しております。平成 24 年度は犬 105 頭、猫 225 頭に装着いたしました。マイクロチップは収容される動物が、速やかに飼い主の下に返還できる方法として、有効なものと考えておりますので、鑑札、注射済み票の装着とともに、獣医師会と協働で普及啓発していきたいと考えております。</p> <p>最後に一番裏のページ、仙台市の犬・猫統計をご覧いただきたいと思っております。2 番の犬の抑留及び引き取り等の状況でございます。平成 24 年度は引き取り頭数が減少しまして、返還率が回復しました結果、処分数はゼロを達成することができました。</p> <p>3 は、猫の引き取り状況になっています。まだまだ引き取り頭数が多くて、さまざまな問題を抱えている現状がございます。飼い主のいない猫の不妊手術の推進とともに、獣医師会とボランティア協働での譲渡の推進を、手探りでやっている状況でございます。24 年度の仙台市動物愛護アクションプラン実施結果につきましては以上でございます。</p>
佐藤会長	<p>はい、ありがとうございました。24 年度の仙台市動物愛護アクションプラン実施結果ということで、終了した事業ではございますが、25 年度につながる意味でもご意見、ご質問ございましたらお願いいたします。</p>
吉川委員	<p>ただいま資料の 6 ページ、町内会等と連携してマナーアップゼミなどを開催したという報告いただきましたが、これを広げていくお考えはないんですか。各連合町内会単位に何回か、実施していただくということです。25 年度のこの報告をまだ聞いていませんけども、言及されておられるでしょうか。</p>
動物管理センター所長	<p>町内会等と連携してセミナーを開催することにつきましては、まず館に関してはそのらからご要望があって、協働で実施しました。さまざまな問題を抱えている町内会に関しては、ぜひ協働でそういう形を進めていきたいと考えております。</p>
吉川委員	<p>そのらから呼びかけるということはされないんですか。管理センターから町内会連合会に対して呼びかける。このような講習会をやらせていただけないかと、呼びかける考えはお持ちでないんですか。</p>
動物管理センター所長	<p>もともとこの館に関しては、地域懇談会の中でマナーの問題が上げられました。それに対して実は条例を作って欲しいという話でしたが、そうではなく、まずマナーアップを図ることで解決できるのではないかとご提案を差し上げたところ、この講演会を開催することになりました。特に問題が起こっているところに関して、重点的に進めていきたいと考えております。</p>
佐藤会長	<p>基本的に町内会からの要請を受けて開催するという方向なんでしょう</p>

	か。
動物管理センター所長	基本的には、まずは問題が起こっているということを考えますと、それが最初になると思います。
吉川委員	よろしいですか、個人的な見解を申して、町内会連合会に対して、呼びかけていただければなと思うんです。多分関心があると思うんです。ですから管理センターから、区連協単位でもよろしいですし、地区連合会に対してでもよろしいですから、年に1～2ヶ所ぐらいずつでも、この種の講演会や説明会といったようなことをしてもらえればなと思うんです。
参事兼生活衛生課長	生活衛生課の岡崎です。会長さんおっしゃるように、この運動を広げていきたいと考えてございます。ただ、この館地区は犬の散歩でもって、道路の糞害が相当ひどくて、問題になり、地域懇談会で話題になって、どうしようかという話で取り組んだと聞いております。町内会と行政、行政は動物管理センターと道路を管理する部署、この3者で取り組んで、散歩する人に呼びかけました。 まずはそういう問題になっているところを優先して対応しながら、会長おっしゃるように、ほかにも広げていければと考えてございますが、じゃ来年度どうするかというところまではまだ決まっていないですね。そういう方向性で考えておるということでご理解いただければと思います。
吉川委員	はい、わかりました。
佐藤会長	ほかにご意見ご質問ございますか。よろしいですか。それでは議題1の平成24年度アクションプラン実施結果につきましては了承いただいたということで報告させていただきます。次に議題2としまして、平成25年度の動物愛護アクションプランの実施状況、これを事務局のほうから説明をお願いします。
動物管理センター所長	はい、平成25年度動物愛護アクションプランの4月から10月までの実施状況をご説明いたします。昨年度実施内容と違った特徴ある内容のもののみご説明させていただきます。資料2の2ページをご覧ください。重点事業2の災害発生時動物愛護対策事業でございます。資料にも添付してございますように、平成25年6月10日に仙台市獣医師会と災害時の動物救護に関する協定を締結いたしました。詳細は後ほど、大草委員よりご報告いただこうと思っております。 またこの協定に基づき、6月12日には総合防災訓練に参加し、ペット同行避難を啓発いたしました。さらに8月には夏休みの体験イベントとしまして、小学生と親と飼い犬で、犬と一緒に防災訓練を実施いたしました。 (1)のプレハブ仮設住宅や、復興公営住宅でのペット飼育に関する指導や助言を行うことにつきましては、復興公営住宅は一部ペットとの入居が

可能になりましたことから、復興公営住宅の担当課と連携の上、ペット飼育ルール作成にあたり、助言を行ったり、入居者選定委員に獣医師会の理事の推薦を行ったりしてきたところでございます。

現在は平成 26 年 4 月の入居に向け、入居者説明会におけるルール説明やペットの会の立ち上げ、運営助言などに獣医師会とボランティアで関わっていく方向で検討中でございます。次に 5 ページをご覧ください。適正な飼養の推進の②ですね。終生飼養の推進、2. 収容動物の譲渡の推進でございます。

(2) の獣医師会とボランティア協働で、保護収容された犬及び猫の譲渡会の実施についてでございます。表を見ていただくとわかると思いますが、今年度は猫については、平日の午前水曜日の譲渡会を開催いたしました。今までに 20 回の譲渡会を開催しました。同時に随時の譲渡も行い、今までに 281 頭の譲渡という結果が出ております。

今年度は譲渡事業を行っているボランティア団体への譲渡が困難になったので、この方法と消防音楽隊演奏会の場で、ボランティアと協働で広報のスピーチやチラシ配布をするなど実施してきました。それが功を奏したと考えております。今後もさまざまなツールや機会、方法を考え、関係団体とともに、広報に努め、適正譲渡を推進していきたいと考えております。次に 6 ページをご覧ください。

④の動物取扱業者の責務の徹底について、動物取扱業者への指導啓発についてでございます。(1) 動物取扱責任者研修の開催につきましては、今年度は県と合同で5回のほか、追加研修を行いましたところ、261名が受講しまして、94.2%の受講率となりました。

また(4)の法律改正によって追加された「犬猫の健康安全計画」策定指導は、91件が提出いただき、提出率97.8%となっております。今後はさらに立ち入り監視指導を強化して、動物取扱業者の責務の徹底を図ってまいりたいと考えております。続きまして7ページをご覧ください。

Ⅱの人と動物の良好な関係の構築の推進の、1の動物介在活動の普及推進、(1)(2)で、動物介在活動の普及と啓発になっております。昨年に引き続きまして、被災した子どもたちの心のケアを目的として、6月27日に日本動物病院福祉協会のご支援によりまして、柴内先生とスタッフ2名、活動犬3頭とエューキューブと獣医師会の協働によりまして、荒井小学校用地仮設住宅の集会所において、犬と遊ぼうとのテーマで活動を実施いたしました。詳細は後ほど齋藤委員からご報告いただきたいと思います。

七北田小学校の6年生のアニマルプロジェクトチームは、動物慰霊祭における「動物たちにささげる言葉」の朗読や、小学校の夢フェスタにおけ

	<p>る動物ふれあいコーナー企画を実施いたしました。このことにつきましては、後ほど坂本委員よりご報告いただきたいと思います。平成 25 年度のアクシヨンプランの実施状況につきましては以上でございます。</p>
佐藤会長	<p>はい、ありがとうございます。追加説明としまして、仙台市の被災動物救護対策本部長でございます大草委員から、今年度の取り組みと 6 月 10 日に市との協定締結についてご報告いただければと思います。</p>
大草副会長	<p>仙台市獣医師会の会長の大草でございます。冒頭に、鈴木仙台市保健衛生部長からお話がありました。6 月 10 日に仙台市と協定を行いました。この協定は、私の前任の茂木会長時代からの、永年の懸案事項でありました。締結が結ばれない中で震災 3・11 を迎えました。その後、みなし締結という形で行ってまいりましたが、今年度の 25 年 6 月 10 日に正式に協定を締結したということでもあります。</p> <p>内容は先ほど鈴木部長が言われたとおり、迅速な対応と動物同行避難を推進するということが大きな柱であります。内容的には 100%とはいかないので、お互いに協議をしながら柔軟に対応していくということで、市長ともお話をしております。なるべくこういうことはないほうがいいんですけども、そういう形でこれからも推進をしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
佐藤会長	<p>次に 7 ページの人と動物との良好な関係構築の推進と、これに関わる動物介在活動の推進について、独自の活動を行っております NPO 法人エーキューブの理事長の齋藤委員から、最近の状況をご紹介します。</p>
齋藤委員	<p>先ほど動物管理センターの所長がおっしゃったように、今年度は 3 年目になります。荒井小学校用地仮設住宅は、荒浜小学校の生徒たちの住んでいる仮設でしたので、被災年度から 3 年にわたり、こちらで介在活動を行いました。昨年と同様に JAHA (日本動物福祉協会) の CAPP (Companion Animal Partnership Program = 人と動物のふれあい活動) 活動犬 2 頭を協力いただき、会員の犬 4 頭と 6 頭で訪問活動を行いました。</p> <p>訪問活動をするにあたり、荒浜小学校の校長先生にごあいさつに伺って、仮設住宅に住んでいる方、小学生の方以外にもご希望であればどうぞご参加くださいと、お話をしました。高学年の子どもたちは、大分自分たちの被災状況を受け入れる余裕ができてきたが、時が経つに連れて PTSD (心的外傷後ストレス障害)、夜にトイレに行けなかったり、ひとりで眠れなくなってしまったという問題が起きている子どもが、低学年に見られるというお話を伺いました。動物によって心の癒しができるのであれば、ぜひやっていただきたいと思います。学校で介在活動のお知らせのチラシを配布していただいたりもしました。</p>

	<p>活動の対象の小学生以外にも、小学校を卒業した中学生や、仮設の高齢の方、幼児など幅広い年代の方たちがふれあいに見えて、本当にいい活動ができたと思っております。来年度から復興公営住宅に移られる方もいるので、活動はもしかしたら今年で終わりにしてしまうのかなと思いますが、3年間続けたことで、子どもたちのいろいろな変化も見ることができ、本当にいい活動ができたとは思っております。</p> <p>私たち独自のエーキューブの活動は、通常どおりの活動を今年を行うことができました。新たに2件、老人通所施設と障害者施設の訪問活動に入ることもでき、問い合わせも多くきています。やっぱり不安定な時代に、心の癒しを求める人の要望が少しずつ多くなってきていると感じております。以上です。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。来年度からは復興公営住宅のほうになって、もう活動は中止というご紹介をいただきましたが、もう少し詳しく教えていただけませんか。</p>
齋藤委員	<p>活動中止という事ではなくて、仮設住宅での訪問活動が、子どもさんが少なくなってしまったときにどうなのか、その仮設に残る人たちが、どういう状況でいらっしゃるのがわからないので仮設住宅の場所での活動がむずかしくなりそうな気がしています。御要望があれば引き続きということもあるので、まだ未定の状態であります。</p>
佐藤会長	<p>よろしくお願ひしたいと思います。続きまして、同じこの人と動物との良好な関係構築の推進に関わる事業です。小学校の地域共生科の授業で、子どもたちがセンターの動物愛護の事業に協力するという取り組みをされて3年目を迎えているという、七北田小学校の校長の坂本委員から、学校としてのお考えと今後についてお話しいただければと思います。</p>
坂本委員	<p>はい、七北田小学校でございます。私のお話の前に今、齋藤委員さんのお話をお伺いして、一言お話しさせていただきます。荒浜の子どもたちは3・11のときに、私なんか想像できない、本当に怖い思いをし、孤独な夜を過ごしました。そういった思いをした子どもたちなものですから、かなり心にいろんなものを抱えているんじゃないかなと思います。</p> <p>学校にいるときはほかの子どもたちと一緒に、多分忘れていると思うのですが、ふとしたときにそういったことを思い出す。そういったときに動物と関わるといことは、無条件に何か動物から感じられるものがあります。そういったもので、子どもたちの心が一瞬でも癒されるのは、教育に携わる者として、大変ありがたく思います。ぜひ今後も続けていただくと本当にありがたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>うちの学校は前回もお話ししたのですが、震災前から七北田のまちを元</p>

気にしようと全校で取り組んでおります。その中で6年生の子どもたちは、具体的にどのようなことをしていったらいいかということ、考えまして、いろいろなプロジェクトを立ち上げました。そのうちの1つが、今年はアニマルプロジェクトという名前で活動しています。これは決して強制ではなくて、その年、その年の子どもたちがどういう形で、地域を元気にしようかということを考えてつくっていくものです。

去年もあったのですが、今年も6年生の子どもたちがぜひやりたいということで、動物と触れ合うことで地域を元気にしよう、あるいは何とか動物の里親を探す手伝いができないか、という思いでやっております。

今年は大変ありがたいことに、9月7日の慰霊祭に声をかけていただいて、子どもたちそこで出していただく機会を与えていただきました。私も初めて参加させていただいたのですが、終わった後、子どもたちの話を聞きました。大変厳かな雰囲気の中で、命の重さというものを、子どもたちは感じたようです。

終わった後、非常に疲れた顔をしておりました。それはあのステージの上で話をしたということだけではなく、非常に厳かな雰囲気の中に包まれたということで、子どもたちなりに感じたものがあったんじゃないかなと思います。大変いい機会を与えていただきまして、本当に感謝申し上げます。

11月19日土曜日なんですけど、毎年学校を挙げて、午前中に子どもたちのお祭り、午後は地域の方々との触れ合いの場ということで、1日かけてやっている行事があります。その中で今年も動物と触れ合う機会ということで、動物管理センターの方々にご協力いただきました。犬や猫、うさぎやモルモットを貸していただき、子どもたちと触れ合う機会を与えていただきました。

最近、学校で動物を飼う機会がどんどん減っています。前も申しあげたかもしれませんが、いろいろな伝染病等の問題がいわれてきております。なかなか学校で動物を飼いにくい状況の中で、たくさん子どもたちが動物と触れ合う機会を持たせていただいたということに、とても感謝しております。

このプロジェクトは来年どうなるか、再来年どうなるか。これも子ども次第です。決して我々からこうしなさい、これをやりなさいと言っているものではありませんが、今までの流れを見ていくと、次の子どもたち、今の5年生、今の4年生が恐らく引き継いでくれるのではないかなと思います。大変いい機会を与えていただきました。どうもありがとうございました。

佐藤会長	<p>ありがとうございました。今のお3人方のご発言も含めて、平成25年度の仙台市の動物愛護アクションプラン実施状況について、ご意見ご質問をお願いしたいと思います。ところで、1ページ目の飼い主のいない猫対策事業ですが、平成25年度、前年度の504に比べて69ということで、非常に少ない感じを受けるのですが、どういう理由なんでしょうか。</p>
動物管理センター所長	<p>そのことに関しましては獣医師会の大草会長、よろしく申し上げます。</p>
大草副会長	<p>今佐藤委員からのお尋ねでございます。平成18年度からこの事業を始めました。1つは平成24年度の段階で、仙台市獣医師会の理事会の中で、頭数的には非常に多いんですけれども、やはり実施する先生の偏りが非常に大きいんですね。このうちの大体7割8割が数人の先生で行なわれており、仙台市獣医師会としての事業なのに、こういうことはどうなのかという意見が出ました。</p> <p>委員会を設けまして、その中でいろいろ討議をしていただきました。とりあえず今年度の上半期は、1人10頭を目標に、幅広く皆様にこの事業に参加してもらおうと実際やってみました。やはりなかなか思うようには頭数が上がりませんでした。それで上半期はどうするかということをお前の理事会で討議をしました。</p> <p>1つは今までの飼い主のいない地域猫ということで、非常にゆるい縛りだったんですね。実際に地域猫かどうかを、今までは確認していなかったということがあります。もう1つは仙台市を取り巻く宮城県では、こういう事業がなく、よく獣医師会で精査をしてみると、やはり仙台市以外の方の猫も結構入って来ているという事情がありました。</p> <p>そういうことで1回そういう足かせを持ってやってみてどうなるかと、今年検証してみたんです。実際どうしてもこういう少ない数になってしまったので、来年以降はまた新たな方策を持って、仙台市が助成の事業ですので、そこはしっかりやらなくちゃいけないと、1月以降の頭数を見守りながら、来年度の新たな考えを出したいということでもあります。</p>
佐藤会長	<p>はい、ありがとうございました。ほかにご意見ご質問ございますか。</p>
齋藤委員	<p>すみません、災害発生時動物愛護対策事業のところで、今年度総合防災訓練の1つとして、泉区の小学校で防災訓練を、動物管理センターと一緒にさせていただいたんです。その際に動物も避難という形で、訓練に参加した人たちと一緒に避難をしたんですけれども、結局、中に動物は入れませんと、入れていただけなかったんですね。</p> <p>仙台市は災害を体験した地域ですから、そこで何があったか、実際皆さん体験されていてわかります。動物を連れて避難したけれども、その避難</p>

	<p>所に入れたい。また別の避難所に移る途中で被災してしまったとか。人だけ建物の中に入って、外につないだ動物は流されて亡くしてしまったということがあったのに、やっぱり動物は避難した建物の中には入れないのは、ちょっと問題かなと思いました。</p> <p>そこは小学校だったので、校長先生に、実はこういうことが被災された方たちであったんですよ。そして避難された小学校でもペットを受け入れる小学校もあって、ペットを連れた方と教室を分けたとか、そういう場所もあったということをお話ししました。実は自分たちもどうしていいかわからないので、ペット不可としたけれど、そういう方法があったのであれば、そう考えることもできますねというお話でした。</p> <p>せっかく校長先生がいらっしゃいますので、災害って言うと、避難所は小学校とか学校になると思いますので、何かの折にそういうところも、学校側で一考していただければと思います。以上です。ありがとうございます。</p>
佐藤会長	市からは、何かそういう働きかけは考えておられますか。
参事兼生活衛生課長	<p>避難所運営において今、その指定避難所を本庁のどここの課が、どここの学校を運営するというので、学校にお邪魔して、学校側と町内会長さんも一緒に、具体的な話をしているわけです。そういう中でまず我々の足元からということで、健康福祉局が管轄する学校関係、具体的には太白区内の学校となります。今、齋藤委員がおっしゃったような、避難所の中ではペットに対しての場所の提供を、1校1校にお願いしているところです。この流れを今後も少しずつ広げていながら、できればルール化というところまで結びつけられれば一番いいのかなと考えてございます。</p>
佐藤会長	ありがとうございます。
柴内委員	<p>主に避難先として、小学校が活用されるということですね。先日も被災を忘れないために、という動物の同行避難等に関わる講習会をいたしました。基本的に環境省は、既に同行避難をその指針に出しているはずなんです。</p> <p>荒浜小学校は被災の前に何度かお訪ねしていました。あちらは大きな被災を受けながら、たくさんの命を救ったビルの1つになったわけです。他の例ですが、実際には動物を連れて行けたが、その場で動物は外にという指示があった結果、大変無残なことが起こった報告があります。日頃訪問活動で小学校に訪問していたことが、その指導者の校長先生・副校長先生の「動物も一緒に入りなさい」と声をかけていただけることにつながっており、とても大事なことではないかという話題も出ておりました。</p> <p>そういうことも含めまして、校長会などで話題にしていきたいと思</p>

	<p>います。今では世界中で、伴侶動物は家族という位置づけになっております。その一声のご指導がいただけるよう、先生を通しまして、チャンスを大いにつくっていただけたら嬉しいと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
佐藤会長	<p>はい、今、岡崎課長からもありましたように、拡大する方向で検討していただければ、今後改善されていくのではないかと思います。学校でも機会がありましたら、そういう国の方針等もございまして、紹介いただければと思います。ほかにご意見ご質問ありませんか。はい、どうぞ。</p>
山口委員	<p>ちょっと教えていただきたいんですが、動物取扱業者の責務の徹底という6ページの件です。立ち入り検査を42件されているんですけども、このうち改善指導をされた件数はどれくらいありますでしょうか。</p>
動物管理センター所長	<p>基本的に大きな改善指導はございません。小さなものは半分くらいです。ちょっとしたことではありますが、きちっとしたデータを取っていないので、大変申し訳ありませんが明確にお答えできません。まだ実施率が低いところですが、特に相当な改善を求めたところはございません。</p>
佐藤会長	<p>このアクションプランを見ると、2年に一度を目途にということですが、実施率15%だと2年で全部網羅できないんじゃないかと思いますが、この辺はどうでしょうか。</p>
動物管理センター所長	<p>そのデータは、10月までの実績で、この後に重点的に定期立入をしているところで、計画どおり半数を回れる予定ではございます。よろしいでしょうか。</p>
佐藤会長	<p>ほかございませんか。もう1点ちょっと私から、狂犬病予防注射の件ですが、これも登録頭数が48,809頭で、注射実施が21,659ですが、大体こんな程度なんですか。半分以下の実施率のように見えるんですが。</p>
動物管理センター所長	<p>そこに出ています数字は集合注射の数です。集合注射は4月に行っておりますが、その数が出ていまして、あと動物病院で実施することになっております。最終的には大体80%から85%の実施率になります。今年はまだデータが出ていませんが、12月1日にまだ注射していないところに対して、督促状を発送しております。今は、まだ接種していない方に注射をしていただいているという状況でございます。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございました。ほかにございますか。はい、先生お願いします。</p>
甲羽委員	<p>この狂犬病の予防注射に関しては、組合で集めたときにも注意するんですけども。家庭で1頭か2頭飼っている飼い主はまじめなんですよ。それほど金額でない。でも2頭だと1万円ぐらいになるのかな。ただ、私らの組合員で多頭飼育、繁殖している連中がまじめに全頭注射を受けるとい</p>

	<p>う形になっていないんですね。業者であるかないかは別として、多頭飼育している人がやっぱりこぼれているという。それが実情のようです。</p> <p>それからさっき、被災地の犬の問題出ました。白石にも津波の被災はしておらず、福島被災者が120名ぐらい、施設に、避難してきました。そして犬と猫を連れて来たのが10名くらいいたんですね。犬を収容する施設はありませんので、犬と一緒に建物に入れないので、自分の車で犬を飼って、避難していたという形なんですね。</p> <p>その日のうちに、私のところにその避難している地区の責任者、世話人の方が来て、ケージを貸してくれないかという話でした。みんな大きな犬なんですね。座敷で遊ばせている犬じゃないんです。それで大きいやつじゃないと具合が悪いので、自分の車で犬を飼っていました。</p> <p>最初は掃除するときに、犬を入れておくケージがほしいという話で来たんです。自分の車が犬に汚されるので、車の中にケージを置いて飼うという形を取りたいというので、一番大きいタイプを4個、全部新しいものを、貸してあげました。</p> <p>そうしたらその4人だけじゃなくて、ほかの犬を連れて来ている人も交替で車を掃除するときに入れておくとか、そういう使い方をしたので、非常に助かっていますという話だったんです。その後、20日くらいで市が場所を移動させたんですね。そのときに貸したケージがどこかに行っちゃって戻らず、寄付したという形になってしまいました。</p> <p>避難している人たちの犬の世話まで、施設でできないというよりもしないんですね。だから自分らで工夫したということなんでしょう。助けてあげようと思って、好意を示したのに、45,000円くらいの品物はなくなりました。移動するときには、ありがたうも何もなくなっちゃいました。「もういねのが」という結末では、本気になってお世話した甲斐が無かったような気がしました。被災者にとってはそれどころでは無いのだけれども。</p>
佐藤会長	<p>はい、ありがとうございました。そういうことで避難を受け入れる側も、避難する側にも、少し自覚を持ってもらう必要があるだろうというご意見だと思います。狂犬病については、多頭飼育の方でこぼれる場合がありそうだと思います。そういう方へも徹底して、狂犬病予防法に従うように、情報を流していただきたいと思います。ほかにご意見ご質問ございますか。</p> <p>もう1題ありますのでこの辺で、議題2、平成25年度の動物愛護アクションプランの実施状況について了承されたということで、報告したいと思います。続いて議題3の仙台市動物管理センターの愛称選定について、事務局からご説明をお願いします。</p>

動物管理センター所長	<p>はい、仙台市動物管理センターの愛称選定についてご説明いたします。お手元の資料の3をご覧ください。委員の皆様には7月に通知させていただきまして、市民が動物愛護と適正飼養について、関心と理解を深めていただき、センターがより身近で親しまれる施設になるように、9月に市民から愛称を募集したところでございます。</p> <p>その結果、286件の応募がございました。11月の末に、委員の皆様には一次選考をお願いしたところでございます。動物管理センターの愛称の選定基準及び選考方法についてでございますけれども、資料にありますとおり、選考基準に関しましては、そこにお示ししたとおり、4点でございます。</p> <p>短い表現で憶えやすい。親しまれる。人と動物の共生の響きがある、というところで選んでいただいたことになると思います。選考方法に関しましては、3段階による選考方式でございます。一次選考は既に各自で行なっていた、事前選考となります。本日は(2)の二次選考をお願いするところでございます。①の委員及び事務局が選んだ作品を一覧としたもの、あと点数換算しまして順位をつけたものが別紙の2つになります。一次選考結果一覧表でございます。</p> <p>この内容を検討いただきまして、②におきまして、この一覧から各委員は再度3点、順位をつけて無記名でご投票いただきます。次に事務局でその投票いただいた内容について、順位を点数換算しまして、選考された作品に得点を付した結果を今日作成させていただくこととなります。</p> <p>最後にこの順位をつけた結果表に基づいて、本日協議会として、10点程度決めていただきます。今日決めていただいた後は、(3)の三次選考ということになります。二次選考の通過作品の結果表に基づいて、市の選考委員により、最優秀作品1点、優秀作品2点を選び、3月に表彰して、4月より使用を予定しているところでございます。委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
佐藤会長	<p>今の事務局からの選考についての説明について、ご質問ございませんか。点数換算するという話でしたが、この委員会委員から3作品選んで、その後の点数換算の方法はどうなっているのでしょうか。</p>
動物管理センター所長	<p>今日投票いただいた結果に関しましては、3点選んでいただきますが、順番をつけて、各自出していただきます。1番については3点、2番については2点、3番については1点ということで、それぞれに点数を足し、順位をつけていくということになります。大丈夫でしょうか。</p>
佐藤会長	<p>はい、ということですが、いかがですか。それではそういう形で進めさせてもらいます。最初に、事前に各委員から5点選定いただいております。この資料3にありますように、選定いただいております。それで簡単に各</p>

	委員から選定理由の発言をお願いしたいと思います。時間が4時までですので、それまでに全部決めたいと思いますので、簡単をお願いいたします。初め、副会長の大草委員のほうからお願いします。
大草副会長	私は現代にマッチしてって書いたんですけども、ちょっと理由がそのとき浮かばない。1つはやはり仙台市が標榜している健康や幸福っていうことが、端的に現れ、動物にもあてはまるのではないかということで、私はアニマルウエルフェアがいいと思いました。ほかのものについては、ちょっと優劣がつけ難かったので、1点だけにいたしました。以上であります。
佐藤会長	はい、ありがとうございます。それでは続きまして、吉川委員お願いします。
吉川委員	286点という多数の応募で、この中から5点という選考をお願いしたいという要請があり、大変私は悩んだんです。その中で選考基準として4点挙げられている中で、私は4番目の原則である、施設等で使用していないものに留意したんです。あとは簡潔でよく理解される名称ということで、この5点を挙げさせていただいたことでございます。
佐藤会長	はい、それでは次に甲羽委員、お願いします。
甲羽委員	あんまり長ったらしいのも具合が悪いだろうし、奇をてらうって感じのものでもまた具合が悪いだろうし。後ろに仙台っていう呼び名をつけたほうが良いような気がして、これを選んだんですけども。難しいですね。はい、以上です。
佐藤会長	はい、ありがとうございます。それでは齋藤委員、お願いします。
齋藤委員	はい、私も覚えやすいということと、電話を「はいっ」と受けたときに、舌がもつれない長さで、そしてどこでも使っていないのをまず選びました。それでこの5点となりました。以上です。
佐藤会長	はい、ありがとうございます。それでは次は坂本委員、お願いします。
坂本委員	ほかの施設で使われていないものということで選びました。あとは職業柄、子どもたちが親しみやすいものがないかなということで考えてみました。この5点を選んだ後、私の子どもに見せたところ、1番は「動物園みたいだ」と言われてしまいました。 2番は「意味がわからない」と言われてしまいました。私はとってもよくわかるのですが、やっぱり今の子どもというか、若い子と言いますか、ちょっと難しいのかなと思いました。これ書いたときはこの順番だったんですが、今になってみればこの3番が一番上に上げられるかなというような思いです。以上です。
佐藤会長	はい、ありがとうございます。その次は柴内先生。
柴内委員	私はもうアニマルウエルフェアだけ。最後に仙台をつけたいと思ってい

	<p>るんです。長野の『ハローアニマル』を命名したとき、私携わってしまし て、とてもわかりやすい、いい言葉だと思ってつけました。このアニマル ウエルフェアになると、舌を噛むとか、説明が必要といったことなどもあ るかもしれません。しかし、今は、人間と動物、自然の世界は One Health (ワンヘルス=人と動物と環境の健康のための様々な分野の協力) という 言葉が徹底してきていますので、しばらく先になるとよかったという名前 にしたいと思って、これ1つだけをお願いしました。</p>
佐藤会長	はい、それでは山口委員、お願いします。
山口委員	<p>ずっと見ていたのに、私はアニマルウエルフェアを見逃していたのです ね。なので、よく似たものを自分で付け加えたんですよ。それ以外の中 ではアニマルケアポートというのが、動物管理センターの仕事として、動物 の飼育管理をちゃんとケアしましょうということで、一番伝わるかなって 思い、これを選ばせていただいたんです。</p> <p>アニマルウエルフェアというのは、これから絶対主流になっていくだろ うという言葉でもあります。そのことを先取りするのはいいことかなと思 います。</p>
柴内委員	私はあと2つ一応出したんです。その1つとしてボンド仙台を出しまし た。絆のセンターという意味で、 One Health と同じで、ボンドセンター などももう1つの考えであることだけ、追加させていただきます。
佐藤会長	私は正式名称に近いってというか、意味が通じるものという感じで選びま した。でも事務局の提案を見ると、もっと親しみやすいものを書くんだと いう感じがしましたが、年寄りはこのくらいしか考えつきません。それじ ゃ事務局からも5つ出ていますので、紹介いただきたいと思います。
動物管理セン ター所長	<p>資料の裏に事務局の5点を出しています。愛称の選定方法の一次選考の ②に、事務局においても順位と理由を付した5点を選ぶとありましたので、 事務局より5点選びました。先生方が提出されたものと比較すると、逆に 役所の固いイメージから外れた、斬新的な感じがするものが多いですが、 短くてもセンターのイメージが沸く名前がよいとの考えで選出しました。</p> <p>ほかの自治体で例えば旭川の「あにまある」とか、岡崎市の「Animo (ア ニモ)」というのがありまして、それに影響された感じがします。特にアニ マル、アニマル・ウエルと出していますが、短く憶えやすく親しみやすく ということで、これに「仙台」とか「杜の」などを加えた作もいいかなと 思っています。</p> <p>アニマルウエルに関しては、アニマルとウエルを合わせたものですが、 ウエルは、WELL で、ウエルフェアがすごく人気があるようですが、幸福 とか満足とか、そういう名前とウエルフェアもかけたということで、これ</p>

	<p>も良いのではないかと思います。しっぽ BunBun もなかなかインパクトがあって良いと思います。以上です。</p>
佐藤会長	<p>ということですが、お互いにご質問等ありましたら。基本的に選考基準にありますように、親しみやすいかということで選ばれた名前と、動物愛護の拠点としての響きがあるものということで、その2つ合わさったものはあまりないのかなと。どっちかに偏っているという感じがしました。</p> <p>どうなのでしょうね、忌たないご意見を、皆さんからいただければと思います。私のコメントは、愛護とウエルフェアは、一緒にいいんでしょうかという点です。動物愛護法の推進を図る場所が、単に動物福祉ということだけでいいのだろうか。日本的な愛護の部分がちょっと欠落するような感じがするんですが、いかがでしょうか。</p>
柴内委員	<p>改めてこうして考えてみますと、難しい言葉でなくて、きっと市民が、または他県からもパッと言葉に出るような、楽しい、呼びやすい名前が、良いと思います。本来のセンターの名前はあるわけですから、そういうニックネームのような形で選ぶべきなのかなという気も今いたしますね。そこでいいものがあるといいですね。なかなかないんです。</p>
佐藤会長	<p>私も応募作品を見ていて、最初、それだけで意味が通じるものということで選定しようと考えていたんです。しかし、一方で意味は直観できないが愛称があって、それを続けていくうちに、そのうち馴染んでもらえて、その愛称だけで理解される施設になるのかなという感じもしました。私が考えたような、それだけで意味が通じるというよりも、もうちょっと親しみがあるネーミングがいいのかなという感じもしましたね。</p>
坂本委員	<p>これ考える際に、この選ばれた愛称をどのようにお使いになるのかなと思ったんですね。電話を取ったときに、「こちら仙台市動物管理センターアニパルです」という使い方をするのか。あるいはあくまでも愛称として独立させてアニパルと使うのか。その辺によって選び方も変わってくるなと思いつつ、非常に迷ってつけたんです。その辺の使い方というのはどのように、もしお考えがあればお聞かせいただきたいなと思います。</p>
動物管理センター所長	<p>多分、最初はこの愛称プラス仙台市動物管理センター両方を電話等と言ってきた、最終的には愛称のみというふうになるのかなと考えています。例えばさっき言った「アニパル仙台市動物管理センターです」と答えていって、最終的に段々みんなに浸透していけば、アニパルだけで通じるっていう形を考えてはいました。</p>
保健衛生部長	<p>いろんな形で使い方はあると思うんですね。ホームページでしたら、正式名称と愛称と並列で両方ずっと使い続けるのかなと思います。あとはその電話で問い合わせなんかの場合は、最初はなかなか浸透しないでしょう</p>

	<p>から、やっぱり両方言わざるを得ないだろうと。</p> <p>ただ、我々としては、愛称だけで通じるような、親しみのある施設を目指していきたいというのが今回の目的です。段々そうなればなということで、浸透していくように、いろんな機会を捉えて、働きかけていきたいなという感じしております。そういう最終的な目標も少し見据えた中で、親しみやすい名前をつけていただければなというのが気持ちでございます。</p>
坂本委員	<p>これを考えながら1つ浮かんだんですけども。的違いかもしれません。白石にホワイトキューブっていう建物ありますよね。あれは正式名称は何かすごく難しい名前がついているんですけど、今はもうホワイトキューブ、と言えば通称というよりは、正式名称に近いものになっているんですが、そういった形で使われるようになるのかななんて思いながらいたんですけどね。そんなイメージでもよろしいですか。はい、ありがとうございます。</p>
佐藤会長	<p>選定された中に犬猫とか、対象動物が入っているのがあるんですが、犬猫だけにセンターの業務は限定されているわけじゃないですよ。</p>
動物管理センター所長	<p>仙台市動物管理センターの業務は犬猫に限定されたものではなく、特に負傷動物に関しては、爬虫類以上のすべてのものを救護するとあります。ただ、収容に関しては犬と猫に限定しているところはございます。</p>
甲羽委員	<p>いただいた資料ではわんにゃんとか、そういう呼び方をしているのもありましたね。</p>
保健衛生部長	<p>わんにゃんって今、お話ありましたように、この280の中で多分最も多かったと思います。わんにゃんっていう言葉を使っている、例えば大阪市の動物管理センターとかいったところもあります。その辺も考えながら、本当に同じ名前がいいのかというあたりも、ちょっと疑問視は、個人的にはそういう気持ちもあります。ただ、基本はわんにゃんというか、犬と猫を主に扱っている施設だということは確かそのとおりでございます。</p>
甲羽委員	<p>いや、好きなわけじゃないですけども。</p>
保健衛生部長	<p>最も多いのはやっぱりアニマルというのが一番、72件アニマルですね。わんにゃんとか犬猫を合わせると70近いところですね。あとは動物とか犬猫とかというあたり。あとは大体1ケタ台という感じですね。</p>
甲羽委員	<p>あんまりひねりすぎても具合が悪いですし。</p>
保健衛生部長	<p>蛇足ですけど、健康福祉局で動物じゃないんですけど、人間を扱っている施設があり、障害関係の施設とか、ポートというのをよく使っています。ウエルポート、ハートポートとかですね。ですからポートを使って応募されている方いらっしゃいますけども、その辺も混同しないようにしたらいいのかな、という気持ちもちょっとあります。考え方によると思います。</p>
甲羽委員	<p>何か最初仙台って書いてしまうと、もう完全に仙台ですから決まっちゃ</p>

	うんですけども。11、12番あたりですね。この辺、仙台をひとつ後ろに持って行けば、それでいいような気もしますけども。
佐藤会長	これはあり得るんでしょう。最終選考の中で、仙台のない作品に仙台を入れたり、前にあるのを後ろに入れると。
保健衛生部長	それは十分考えられます。センターですとかポート、場所を意味するようなプラザだったり、仙台をイメージするような、そういった仙台を前とか後につけるっていうのは十分考えてよろしいと思います。
甲羽委員	言葉に好き嫌いもあるでしょうから、何だ、これはっていわれる可能性も出てきますけど。
佐藤会長	ふぁんどるというのものもあるんですが、愛護というより愛撫なので、ちょっと違うかなって感じがしますが、ほかにございますか。そろそろ投票に移ってよろしいでしょうか。皆さん、3点固まったでしょうか。それじゃ投票に入ってよろしいでしょうか。3点選んで下さい。
大草副会長	必ず3点書かなくちゃいけないですか。
動物管理センター所長	お手元に二次選考票という投票用紙があります。3点書かなくても良いと思います。1点だけでも結構です。よろしくお願いします。
佐藤会長	できればこの中から選んでもらったほうが絞りやすいんですが、そうですね、10点選ぶということになります。点数の高いほうから上位10点を三次選考のほうに回すということになります。
保健衛生部長	10点選んでいただいて、あとその集計、皆さんにお配りしますので、それですんなりということもあるでしょうし、やっぱり微妙なところで、下のほうで入れ替えたらいいでないとか、その辺はまたご議論いただいてもよろしいのかなとは思っています。
山口委員	センターとか仙台とかつけていいんですか。ここに上がっている後ろに。
保健衛生部長	基本はいいと思うんですが、括弧書きでしていただかないとこの点数を集計するときに、ちょっとばらけちゃって、低い点数になったりとかっていうこともありますので、括弧書きで、ええ。
山口委員	括弧書きでつければ。
保健衛生部長	ええ、それであとまとめたいと思います。
佐藤会長	それではお願いします。(投票用紙に記入) はい、ありがとうございます。これから事務局で投票結果の集計を行います。あと順位によって点数化しまして、点数を多い順に並べ、お示しすることになると思います。集計に時間かかりますので、その時間を利用してIAHAIOの世界大会の報告をお願いしたいと思います。事務局からご説明、ご紹介をお願いします。
動物管理センター所長	はい、資料4とあと後ほど配っていただいた2つの資料をご覧ください。当協議会で検討作成しました仙台市動物愛護行政の基本指針におきまし

	<p>て、人と動物の関係の構築の推進の中で、動物介在活動の推進がござい ますが、動物介在活動は IAHAIO＝人と動物の関係に関する国際組織のガイ ドラインに沿い、動物の福祉を重視して行うという記載がござい ます。</p> <p>その IAHAIO の世界大会が、今年7月シカゴで開催されました。その大 会に柴内委員と山口委員がご出席されておりますので、そのときの大会の 様子、及び資料にございますシカゴ宣言についてご説明いただきたいと思 います。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
柴内委員	<p>山口先生と私、この委員会の中から出席しておりますので、IAHAIO の 第 13 回国際大会の報告とそれに関連した報告を發表させていただきます。 IAHAIO という組織は、既に 20 数年前に発足しまして、世界の人と動物 の相互作用に関する国際学会、協会とも呼ばれます。</p> <p>この大会は3年ごとに世界各地で行われております。日本も6年前に第 11 回の大会を東京で開催しまして、その後北欧、今回はシカゴで行われま した。シカゴは全米第三の大都市で、五大湖のミシガン湖畔にあり、建築 美を誇る壮大な都市で大会が行われました。</p> <p>この大会は、シカゴ市内のシカゴマコーミックプレイスという大きな会 場で行われました。今回 13 回目はとても画期的なことがありました。全 米獣医師会は日本の獣医師会と異なりまして、全米の大学、州立大学のす べての審査から、内容に関する権限まで持っている、大変実力の大きな全 米獣医師会です。そちらの 50 周年大会と共催となりまして、大会の中で、 小規模ですが IAHAIO の大会も同時開催されました。</p> <p>今回の大会は特に大きい大会ではありませんでしたが、メインの基調講 演の行われます大会場のほかに、各オーラルの發表のある会場が設けられ まして、世界各国から参加者が各種の發表をされたわけです。特に基調講 演は、ワシントン州立大学の獣医科のオピオイドとオキシトシンという、 ハッピーなときに出てくる脳内物質についての動物の関わりの發表があり ました。そのほかにプレナリーセッションがカリフォルニア大学からの發 表であり、一般講演が当日は 30 題ありました。</p> <p>第 3 日目はプレナリーセッションが 2 題と、オーラルが 29 題という形 で行われました。ここでプレナリーセッションの中の 4 人目の發表者が、 ミズーリ州立大学の教授でおられて、州立大学のシンクレア看護学校とい う、人の看護の学校、そちらの教授でもおられますレベッカ・ジョンソン 先生です。</p> <p>レベッカ・ジョンソン先生は、このミズーリ州立大学のヒューマンアニ マルボンドセンターの所長でもいらっしゃるわけです。人が動物と、特に 犬ですけども、犬と散歩をすることによって健康を維持したり、体重をコ</p>

ントロールしたりするという発表を、お立場上、看護の先生でいらっしゃるので、大変素晴らしい発表をなさっておられます。

IAHAIO は過去はすべて動物関連、コンラート・ローレンツ研究所の所長さんであるとか、ワシントン州立大学の教授の方が会長を務められたのですが、この方は初めて、人間サイドの方で IAHAIO の会長になりました。これは今の、方向づけとして、**One Health** の時代にとっても適格な方が就任されたと考えております。

日本からはおよそ 65 人の方々が参加していらっしゃいます。今回このツアーを組みましたのは、IAHAIO の正会員である日本動物病院福祉協会と、ヒトと動物の関係学会で、各方面の方々 49 名のツアーとなりました。互の会のツアーの皆さんも参加されましたので、いつもですが、開催国の次に参加者が多くなりました。

このカンファレンスで、少し特徴的だったのは、イスラエルとかトルコ、インドなどの動物介在療法の大変ユニークな報告がなされたことです。またイタリアのペルージャ大学の先生の、なだれの中などで人命救助にあたっている、レスキュー作業をしている動物たちのストレスの測定というのもありました。いわゆる心拍とか血中コルチゾールを測定することで、こうした作業に参加してくれる動物たちのストレス状況を測定したものです。

大体、活動を始めてから 15 分後ぐらいでストレスは急激に上昇する。ストレスがかかるのは当然だと思いますが、どれだけトレーニングされた動物たちでも起こる。しかしおよそ 2 時間後には平静を保っていると。トレーニングを十分された動物たちは、そのような場面にあっても、一定の時間を過ぎれば、平静を保つことができるという発表をされておられました。

今回の大会は、人と動物の相互作用についての大会であります。特に人の世界でも最近盛んに注目を受けております **One Health** ということで、人間・動物、そして環境のためのヘルスケアということに注目しております。地球規模で健康問題を考える概念を一層推進させようと。そのために IAHAIO はもっとさまざまな場面で、各大会で行われる宣言文を各国の行政機関に提示し、活用してもらおうようにしようとしています。プレナリーセッションでは健康と動物ということで、レベッカ・ジョンソン先生のお話がありました。

これは各団体のご案内をしているブースの 1 つです。シカゴ宣言、毎回大会で宣言書が出ますが、今日シカゴ宣言のコピーを皆様にお配りしてあると思います。ジュネーブ大会さまざまな大会で出しておりますので、コ

ピーをつくってまいりました。後ほどお返し申し上げますのをお取りいただけたらと思います。

シカゴ宣言は動物、人、環境の健康及びウェルネスは密接に関係しているという概念を全面的に支持しています。ヒューマン・アニマル・ボンドの理念を公衆衛生教育における **One Health** の重要な概念として、医療、獣医療、ほか関連の専門家が教育にも実務にも協力しようと宣言しています。コンパニオンアニマルと人とのプログラムの促進。人と動物の病気の予防と知識の促進。プログラムに参加する動物の幸せと健康を守る基準の促進をしよう、という宣言が出されています。

この IAHAIO の使命は、後ほどお読みいただくことになると思います。第1回 1977 年にロンドン大会が開かれましたときに、初代会長でワシントン州立大学、総合大学獣医科大学の学長をされた、デルタソサエティの創設者でもあるレオ・ビュースタッド先生がヒューマン・アニマル・ボンドという言葉の提唱されました。その方から始まって今回が4代目の会長です。

この大会の会期中にオプションなツアーを設定いたしました。特にシカゴ市の愛護センターと民間のセンターを2つ、3つのシェルターを見学してまいりました。シカゴ市の愛護センターは、規模は非常に大きいので、多くのボランティアの協力がありますけれども、まだまだ大変厳しい状態です。

特に欧米どこでも、基本的にはよく問題になっています去勢をしていないピットブルが大変多いのです。全米には900万頭毎年生まれるといわれ、そのうち400万頭以上がシェルターに連れて来られると。その中でまたその半分くらいが、いわゆる死処置をしなくてはならないということに悩まされてもいるわけです。

民間で大変によいケアをしている施設もたくさんできております。この1つ目のアンチフレイルティソサエティは、前述の市のセンターの中から、新しい飼い主に受け入れられやすい動物たちを受け取って、その動物たちを **Adoption** (保護犬猫の譲渡) しているとのこと。

次は市内のガラス張りで割と中がよく見える部屋で、市民が通りがかりにでも、その子たちに興味を持って覗き込んで、**Adoption** のチャンスを増やす展開をしていました。

3つ目はパウズシカゴというところです。これは特に恵まれた場所にありまして、市内のこのガラス張りの愛護施設です。犬も猫も **Adoption** のできる状況になったら個室に入っているのですが、その個室がすべて個人の寄付です。

その部屋の正面には、寄贈した方と一緒に住んでいた犬猫の写真が立派に飾られまして、その方が、この部屋の寄付をしてくださった。永遠にその方の名前も残り、その部屋も残るということで、この Donation（寄付）の方法は、以前から私たちも希望しておりましたけれど、現実に見てまいりまして、素晴らしいものだと思います。

こちらは年間に9億円の Donation があって、運営費7億円が使われると。年間5千頭の動物たちをケアして、Adoption しているのですね。残ってしまった犬や猫はこの施設が永遠に、生涯ですね、幸せに暮らさせるという目的を持っており、スタッフは常時50人から100人。ボランティア登録は5千人おられて、仕事の前に来て、すべての中の掃除を手伝って、それぞれ自分の分担したところを済ませて会社に出勤するシステムでした。また会社の退社時に、シェルターに来て、食事とか散歩のケアをするといった、ボランティアの大きな補助があって、これは成立していると思います。素晴らしいところでした。

全米、欧州もどちらもそうですが、民間のシェルターはこのようなボランティアの協力によって成り立っています。このツアーはシカゴ大会の後に、シカゴからニューヨークへまいりました。そしてアニマルメディカルセンターに行きました。民間の有名な動物総合病院ですけど、そちらは最新の獣医学を充実させております。また低所得者の方の動物たちをケアするということにも、大変力を入れています。

そちらの見学を終えましてから、またブルースターという近郊まで移動し、あくる日はグリーンチムニーズという、寄宿制の児童養護施設で1日研修をいたしました。こちら広大な敷地に農場と動物たち、特に野生動物の傷ついた動物たちのケアも含めて、子供たちに役立てています。親子で住めなくなったお子さんたち、特に一般の矯正施設で矯正できなかった重症のお子さんたちを寄宿生としてお預かりして、およそ2年間の寄宿生活のうちに、健全な状況にして社会にまた復帰させるという方法です。この施設はもう既に約55年を超しておりますが、創設者のサミュエル・ロス・マイラ夫妻のお力で、これだけ発展的に設営されてきました。

現在は世相を現して、虐待の家庭のお子さん以上に、心の病気のお子さんたちが大半を占めているそうです。また最近は寄宿だけではなくて、通学の生徒も迎え入れていると。動物たちと、子どもたちを愛情深く育み、そしてそのぬくもりと自然とに触れながら、心のケアをしていくといった、大きな仕事をされている施設です。日本からもたくさんの方が研修に行っておられて、研修して帰国された方々もたくさんいらっしゃいます。

このスライドにはラクダが見えますが、私も今回初めて会いました。カ

リフォルニア州で放棄されたラクダをグリーンチムニーズが引き取っています。ラクダはなかなか子どもには危険な動物ですが、今馴致している最中ですね。ただ、ラクダという存在を見たりすることがとても大きな力があって、子どもたちにとってインパクトを与えることができるので、他の動物と合わせて、こうした動物も迎え入れているとおっしゃっておられました。

その後、またニューヨークに戻り、シカゴに戻って、ミズーリ州に向かいました。ミズーリ州立大学は IAHAIO の会長のレベッカ・ジョンソン先生のホームグラウンドです。タイガーというのはミズーリ州がトルーマン大統領の出身地で、トルーマン大統領がタイガーというニックネームを持っておられた。そして州立大学も州もマスコットはタイガーになっているのです。

この州立大学のキャンパスの中に、地元の高齢者施設の設営者と協力して、動物と一緒に生涯住める高齢者住宅ができています。一見とても素晴らしい高級住宅に見えます。土地が広いので平屋で、庭があって、さまざまな施設があって、そして生涯自分の最後の家族である動物と一緒に住めます。

ご本人が病気になりますと、州立大学に入院して、看護が必要だと看護学科から看護の学生やインターンが来て、一緒に住んでいる動物が病気になると、例えば点眼を1日3回しなくてはいけない猫ちゃんと住んでいらっしゃる方には、獣医科大学の看護学科の学生さんが1日3回来て、点眼までしてくれると。どちらかが先に亡くなったら、最期まで面倒見てくださるというシステムですね。

大変羨ましい状況ですけれども。興味深いので伺ってきたんですが、広さなどで、差はありますが、入居金なしで、食費を含めて1カ月 20 万円から、ご夫妻で住まわれたり、広いところをほしいという方は 50 万ぐらいという費用だそうです。

生涯、家賃を払っている限り、その方のお部屋。病気により違う施設に行かなくてはならないといった寂しさはない、いわゆる終の住まいとなる施設でした。とても学ぶことも多く、日本でもこうしたものがつくれたら、大変ありがたいと思っています。

あくる日はドッグフードで有名なヒルズ社の本社工場に招かれ見学しました。こちらは獣医学界に大きく貢献もしているので、見学させていただきました。今では非常に恵まれた環境に動物たちがいて、マイクロチップが入っており、食事の嗜好テストから病態テストまで行われます。しかし、病態をつくって実験をするということは、今は一切されませんが。

	<p>嗜好テストや体重テスト、そういったことのテストに、コンピュータを駆使した、それで動物に負担のないという素晴らしい環境をつくって、研究を進めていました。充実した 11 日間のツアーで帰国しました。3 年後はフランスのパリで、SCAS（スキヤス＝コンパニオン・アニマル研究協会）という会が主催をして、世界大会が開かれますので、どなたでも参加ができます。こうしたオプションのツアーもできますので、ご関心のある方はまたご一緒していただけたら大変嬉しいと思います。以上でございます。どうもありがとうございました。</p>
佐藤会長	<p>柴内先生、ありがとうございます。IAHAIO の動きは、動物愛護行政にも多くの示唆を与えようと思いますので、非常に参考になったかと思えます。今回、One World One Health という発想が中心テーマだということです。人と動物の間での病気の感染等、こういうものが多く考えられるので、人、動物、環境、統一的に健康状態を保ちましょうという発想です。</p> <p>介入療法とかそういう中でも、人獣共通感染症とか、耐性菌問題とか、こういうことの情報提供とか教育なども加えていく必要があるんだろうなと感じました。その点も今後ご検討いただければと思います。</p> <p>回ってきましたように、集計が終わったようです。上位 10 点ということでしたが、同点ですので 11 点でしょうか。11 点で報告するということがよろしいかということも含めて、ご質問ご意見ございましたらお願いします。よろしいですか。じゃこの 11 点ということで、ご了解いただいて、市のほうに協議会として、選定結果を提出したいと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。これで議題は終わりましたが、その他何かございますか。</p>
動物管理センター所長	事務局のほうは特にございません。
佐藤会長	委員の方は何かございますか。
柴内委員	<p>日本動物病院福祉協会は、日本での動物介在活動を進めて約 27 年になります。その中で最近、各施設から発表されました、テーマを入れてまいりましたので、もしよろしければお配りしてよろしいかどうかだけ。テーマだけしかありませんが、もし内容をお聞きになりたい方は協会にお声を寄せていただければ、お送りできると思います。</p>
佐藤会長	<p>はい、ありがとうございます。これについて何かございましたら、柴内先生のほうにお問い合わせください。それ以外何か議題はありますか。なければこれで議事は終了しましたので、事務局のほうにお返しします。</p>
動物管理センター所長	事務局から、今後のスケジュールについてご説明をさせていただきます。次回は 3 月に開催したいと考えております。よろしくお願いいたします。

	<p>またご提案いただきましたように、今年度のアクションプラン後半を進めてまいります。</p> <p>最後に当センターの愛称選定につきまして、長時間ご審議いただき、本当にありがとうございました。選定いただきました 11 点を基に局の選考委員会で、第三次選考をさせていただきます。それで決定していきます。次回の協議会には決定した愛称をご報告できるものと思われま。委員の皆様、長時間にわたり、ご議論いただきまして、ありがとうございました。</p>
進行	<p>以上を持ちまして、第 18 回仙台市動物愛護協議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。</p>
	—了—

平成 年 月 日
署名委員